

チームアプローチセミナーの報告

大蔵暢さんを講師に、チームアプローチセミナーを2016年11月26日に、横浜で開催しました。参加者は20名でしたが、神奈川新聞の熊谷記者が終始同席して、取材が行われ、チームアプローチセミナーへの広い期待を感じました。

大蔵さんの1時間の講演に引き続き、末期がん患者の在宅ケアの事例について、訪問看護ステーション芍薬の鈴木ヨシモト直美さんから発表があり、1時間にわたり討議を行いました。本人に病識がない場合、チームがケア目標を持つことは困難ではありますが、特に重要になることを確認しました。

2つ目の事例は、調布市ゆうあい福祉公社の武安真珠さんが、認知症で支援を受け入れない高齢者の在宅ケアについて発表しました。チームの中で本人が信頼している人を中心に連携をとることで、サービスの導入・継続に繋がった事例でした。

多職種に参加するチームアプローチセミナーに相応しく、訪問看護の立場と訪問介護の立場では異なったアプローチが行われていること、それぞれが必要かつ有効であることを学びました。そして、かかわる専門職と本人・家族が「蜘蛛の巣型」のチームを作った時に、QOLの高いケアが提供されることが事例検討により明らかになり、大蔵さんの講演と相まって深い討論が行われ大変有意義なセミナーとなりました。

最後に、ミシガンネット辻彼南雄理事長と大蔵さんから、セミナーのまとめが行われ、日々の活動の中で自分たちのチームアプローチを検討することの大切さが強調され、盛会のうちにセミナーは終了しました。

(文責 加瀬裕子)